

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名：日本海沿岸東北自動車道 荒川～朝日 間 起終点：自：新潟県村上市南新保 至：新潟県村上市猿沢	事業区分：高速自動車 国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局 延長：20.4km
事業概要：高規格幹線道路網の形成やネットワークの強化、物流・観光の活性化、第三次医療施設アクセス向上等を目的として、日本海沿岸東北自動車道の村上市南新保から猿沢の延長20.4kmを整備するものである。		
H3・8年度都市計画決定 H10年度事業化 H12年度用地着手 H13年度工事着手		
全体事業費：753億円 事業進捗率：76.2% 供用済延長：0km		
計画交通量：12,700～16,000台/日		
費用対効果分析結果 B/C：(事業全体) 1.9 (残事業) 6.3	総費用：(残事業)/(事業全体) 241/ 812億円 (事業費：161/ 733億円) (維持管理費：79/ 79億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 1,509/ 1,509億円 (走行時間短縮便益：1,136/1,136億円) (走行経費減少便益：242/ 242億円) (交通事故減少便益：131/ 131億円)
基準年：H20年度		
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=5.6～6.9（交通量±10%） 事業期間変動：B/C=6.1～6.4（事業期間±1年） 事業費変動：B/C=5.9～6.7（事業費±10%）		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（並行区間等の混雑時旅行速度の改善が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（第三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる。）など		
関係する地方公共団体等の意見 本整備区間は、アクセス時間の短縮による物流の活性化・観光圏域の拡大、災害に強いネットワークの形成、第三次医療施設へのアクセス向上などの効果が期待され、日本海沿岸東北自動車道建設促進村上市期成同盟会（村上市、関川村、粟島浦村）より早期整備が望まれている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成10年度の施工命令以降、当該事業区間の周辺において日本海沿岸東北自動車道の整備にあわせ、幹線道路の整備が進められている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収は平成20年度末に進捗率99.9%を見込んでいる。 残事業は、事業区間起点～同終点（L=20.4km）の工事となっている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収は平成22年度に全区間完了する予定で、平成20年代前半の全区間2車線供用を目指して事業を推進している。		
施設の構造や工法の変更等 施工にあたっては、縦断計画の見直し、橋長の短縮等により、建設コストの縮減に努めてきた。		
対応方針：事業継続		
対応方針決定の理由：事業により見込まれる効果は大きく、その発現のため事業の継続が妥当。		
事業概要図		
		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。